

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

(財)静岡県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

家庭の事情で来日し、日本で生活する子どもたちは、ことばや文化の違いから学校生活で問題を抱えていたり、母語を忘れてしまうことから家庭内での意思疎通が難しくなっているケースが見られる。子どもを取り巻く保護者の環境も複雑なケースが多く、子どもたちが生き生きと生活し、将来の目標に向かって心身ともに成長できるための地域における環境整備の一助となることを目的し、子どもが気軽に立ち寄り、交流したり学習したりできる日本語・学習支援活動を行う。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5月9日	横山レイカ、山本智美、 佐古マサエ、古橋哉子	今年度の活動について	年間スケジュールの予定と確認
10月17日	横山レイカ、山本智美、 佐古マサエ、古橋哉子	文化祭への出展協力、保護 者への日本語支援について	出展内容の決定、失業した保護 者への日本語支援活動について
3月6日	横山レイカ、山本智美、 佐古マサエ、古橋哉子	今後の活動について	保護者への協力要請や子どもの 募集の仕方、運営方法について
3月13日	横山レイカ、山本智美、 佐古マサエ、古橋哉子	今後の活動について	富士市との連携、役割分担、運 営方法について

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称：「富士見台サポートセンター日本語教室」
- ② 開催場所： 富士見台まちづくりセンター
- ③ 学習目標： 日本語や学校の宿題をボランティアとの交流を交えて学ぶことで、学校の授業をより深く理解し、楽しく受けることを目指す。
- ④ 使用した教材・リソース： かんじだいすき、学校の教科書、くもん教材、日本語学級ほか
- ⑤ 受講者の募集方法：
毎月外国籍児童が在籍する小学校へちらしを送付し、担任の先生から配布していただく。
(別紙)
- ⑥ 受講者の総数 37 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 58 時間 (全 28 回)

⑧ 日本語教室の具体的な内容

	開催日時	時間数	参加人数 (子ども)	国籍・母語	教授者・ 補助者人数	内 容
1	5月9日 10:00～12:00	2	8	ブラジル・アルゼンチン・ペルー・ コロンビア・ボリビア等 (8人) ポルトガル語・スペイン語 (8人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア3人	日本語・ 教科学習
2	5月23日 10:00～12:00	2	11	同上 (11人) 同語 (11人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
3	5月30日 10:00～12:00	2	12	同上 (12人) 同語 (12人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
4	6月13日 10:00～12:00	2	11	同上 (11人) 同語 (11人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア6人	日本語・ 教科学習
5	6月20日 10:00～12:00	2	11	同上 (11人) 同語 (11人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
6	6月27日 10:00～12:00	2	15	同上 (15人) 同語 (15人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
7	7月4日 10:00～12:00	2	13	同上 (13人) 同語 (13人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
8	7月11日 10:00～12:00	2	8	同上 (8人) 同語 (8人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
9	7月18日 10:00～12:00	2	7	同上 (7人) 同語 (7人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
	8月は休講					
10	9月12日 10:00～12:00	2	5	同上 (5人) 同語 (5人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
11	9月19日 10:00～12:00	2	4	同上 (4人) 同語 (4人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア7人	日本語・ 教科学習
12	9月26日 10:00～12:00	2	8	同上 (8人) 同語 (8人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習

	10月3日 中止					
13	10月17日 10:00～12:00	2	10	同上(10人) 同語(10人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア4人	日本語・ 教科学習
14	10月24日 10:00～12:00	2	12	同上(12人) 同語(12人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア6人	日本語・ 教科学習
15	11月1日 9:00～14:00	4	10	同上(10人) 同語(10人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
16	11月7日 10:00～12:00	2	8	同上(8人) 同語(8人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア4人	日本語・ 教科学習
17	11月14日 10:00～12:00	2	7	同上(7人) 同語(7人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
18	11月28日 10:00～12:00	2	3	同上(3人) 同語(3人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア4人	日本語・ 教科学習
19	12月12日 10:00～12:00	2	6	同上(6人) 同語(6人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア6人	日本語・ 教科学習
20	12月19日 10:00～12:00	2	12	同上(12人) 同語(12人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
21	平成22年1月16日 10:00～12:00	2	6	同上(6人) 同語(6人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア4人	日本語・ 教科学習
22	1月23日 10:00～12:00	2	15	同上(15人) 同語(15人)	コーディネータ 1人 ボランテ ィア4人	日本語・ 教科学習
23	1月30日 10:00～12:00	2	3	同上(3人) 同語(3人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア2人	日本語・ 教科学習
24	2月13日 10:00～12:00	2	5	同上(5人) 同語(5人)	コーディネータ 2人 ボランテ ィア3人	日本語・ 教科学習
25	2月20日 10:00～12:00	2	4	同上(4人) 同語(4人)	コーディネータ 3人 ボランテ ィア5人	日本語・ 教科学習
	2月27日	2	4	同上(4人)	ボランティア 4	日本語・

26	10:00～12:00			同語（4人）	人	教科学習
27	3月6日 10:00～12:00	2	6	同上（6人） 同語（6人）	コーディネータ 3人 ボランテ ィア6人	日本語・ 教科学習
28	3月13日 10:00～12:00	2	17	同上（17人） 同語（17人）	コーディネータ 2人 ボランテ ィア7人	日本語・ 教科学習

授業報告

開始時間になると子どもたちが宿題や学校の教材を持って会場へ来る。中には親子での参加もある。子どもたちは、ボランティアと1対1～2名くらいで漢字の練習や算数のドリルなどを行う。学年相応の漢字が習得できていない子どもが多いため、教科書の読みの練習をしたり、漢字カードや計算カードを使って学習する活動が中心となっている。また、日本での生活時間が長く、母語が抜けていることから親子のコミュニケーションに不安を抱えているという保護者たちからの相談を受け、この教室では外国人コーディネータを中心とした母語支援（ポルトガル語・スペイン語）の活動も行っている。ポルトガル語やスペイン語で会話ができる子どもも多いが、読み書きはほとんどできないため、読み書きを中心に行っている。教室終了の前にはポルトガル語・スペイン語・日本語の読み聞かせを行っている。みんなの前で本を読みたがる子どもが多く、自分の好きな本や教科書をボランティアの力を借りながら読み、活動を終了している。また、地域活動として定着するよう、地域主催のイベントにも積極的に参加し、学習者の母文化を紹介している。



⑩ 活用した日系人等（日本語を母語としない）の名簿

氏名	母語（国籍）	来日年（日）数	参加回数	当該教室での役割
横山レイカ	ブラジル	25	23	コーディネータ、母語指導、通訳
佐古マサエ	ブラジル	10年以上	19	母語指導、通訳

⑪ 支援者の名簿（⑦以外）

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
山本智美			15	コーディネータ
横田雅美			8	日本語ボランティア、スペイン語通訳
渡邊信夫	沼津国際交流協会ほか		22	日本語ボランティア

松田啓子	富士にほんごの会		14	日本語ボランティア
望月輝夫			16	日本語ボランティア
市川十美枝			14	日本語ボランティア
澤田佐美子			12	日本語ボランティア
鈴置一鉦			15	日本語ボランティア
古橋哉子	静岡県国際交流協会		15	コーディネータ

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日頃の学校生活をより楽しく、有意義に過ごせるよう、国語・算数を中心に学校の宿題のサポートや日本語支援の活動を行った。活動そのものは定着がみられ、補習の場として機能している。学校や地域団体からも理解をいただき、子どもへの声掛けなど協力をいただいている。

② 学習者の習得状況

週一回の活動であり、学習者の参加も断続的のため、習得度においては課題が見られるが、学校以外では日本語を話さない子どもたちも多いため、日本人ボランティアと交流を図ることで日本語を使う貴重な機会であった。教科書やドリルにでてくる言葉や表現について、意味を確認しながら書き取りをしたり、九九を反復するなど、ボランティアと楽しみながら学習を進める様子が随時みられた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

外国籍住民の集住地域であり、以前から日本人住民の外国籍住民に対する苦情や偏見の意見が寄せられていたが、本活動が外国籍住民と日本人社会をつなぐ活動として役割が多少なりとも果たせたのではないと思う。通常の学習サポートの活動のほか、グループとして地元のイベントで学習者の母国文化を紹介したり、意見交換会を開いたりすることで、地域住民同士の交流やお互いの考えを述べる機会ともなった。結果、地元住民がボランティアとして活動へ参加したり、日本文化を体験する機会へ学習者が参加する機会を設けることができた。子どもを対象とした活動であるが、活動に広がりがあったことから、学校で新型コロナウイルスが流行したり、保護者が経済不況の影響から解雇の問題がでたときには相談に乗ったりするなど、生活の一助となる活動として機能した。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

小学校 PTA との母親同士の交流会の開催、文化祭への出展、自治会や地域他グループとの交流会など、地域活動として連携を深めることができた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

学校の授業ではなく、「居場所」として機能するよう心がけているため、学習者の参加が断続的である。保護者が活動へ参加するよう促したり、子どもを送りだすような理解と協力が必要である。

b. 今後の課題

地域における多文化共生の活動について、子どもの保護者が自分たちの問題であると認識し、自らが参画するよう、理解を促していくことが重要である。そのために、地域住民同士が交流を図る機会や意見を交換する場に積極的に参加するよう、新しい働きかけが必要だと考えている。

c. 今後の活動予定、展望

今まで当協会が主体となり運営してきたが、平成 22 年度からは富士市国際交流室が市の多文化共生のモデル地域として本活

動を推進・展開していく。子どもを中心とし、地域に住む大人たちがさらに交流を深めるよう、より一層学校や自治会等とも連携を深めていく。

③その他参考資料